

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第 38 号

2003 年 5 月 8 日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

1. 第 14 回 (2003 年度総会) 全国研究大会のご案内

開催日: 平成 15 年 6 月 14 日 (土) 15 日 (日)

場 所: 名古屋商科大学大学院伏見キャンパス (名古屋市中区錦 1-20-1)

地下鉄東山線伏見駅 (アクセスマップ URL: <http://www.nucba.ac.jp>)

電話: 052-203-8111

6 月 14 日 (土)

10:30 - 11:30 理事会

12:20 - 12:50 受け付け

12:50 - 13:00 開会挨拶 谷内達 (東京大学) オーストラリア学会代表理事

13:00 - 17:20 公開シンポジウム 「オーストラリアにおける経済改革とビジネス展開」

13:00 - 14:00 基調講演 (英語) 司会 関根政美 (慶応義塾大学)

13:00 - 13:40 基調講演 "Economic Reform and Growth in Australia"

Professor Gordon de Brouwer オーストラリア国立大学豪日研究所所長)

13:40 - 14:00 質疑応答

14:00 - 14:15 休憩

14:15 - 17:30 パネルディスカッション「ビジネス展開: 企業別各論」

司会 小林信一 (日本大学)

討論者 石垣健一 (神戸学院大学) 松繁寿和 (大阪大学) 森 健 (独協大学)

14:15 - 15:15 リンナイ株式会社

15:15 - 15:20 休憩

15:20 - 16:20 トヨタ自動車株式会社

16:20 - 16:30 休憩

16:30 - 17:30 Itoham Foods (Australia) Pty. Ltd

17:30 - 17:40 豪日交流基金からのお知らせ

18:00 - 20:00 懇親会 名古屋観光ホテル

6 月 15 日 (日) 個別報告

9:15 - 9:30 受け付け

9:30 - 11:00 第一部 司会: 安藤充 (愛知学院大学)

9:30 - 10:15 奥田敦子 (奈良女子大学大学院人間文化研究科)

「多文化社会オーストラリアにおけるケア: 緩和ケア・文化ケアを通して」

10:15 - 11:00 多田 稔 (国際農林水産業センター)

「ミナミマグロ漁業におけるアウトサイダー漁獲の決定要因」

11:00 - 11:15 休憩
11:15 - 12:45 第二部 司会：橋本雄太郎（杏林大学）
11:15 - 12:00 岡本次郎（アジア経済研究所）
「オーストラリアの自由貿易協定（FTA）政策」
12:00 - 12:45 花井清人（成城大学）
「オーストラリア経済改革の政策ガバナンス」
12:45 - 14:00 昼食 / 理事会
14:00 - 14:20 総会
14:30 - 16:00 第三部 司会：福嶋輝彦（桜美林大学）
14:30 - 15:15 岡崎一浩（愛知工業大学）
「オーストラリア会計基準の国際会計基準への収斂」
15:15 - 16:00 遠山嘉博（追手門学院大学）
「オーストラリアの対日工業製品輸出の進展と課題」
16:00 - 16:10 閉会挨拶 谷内 達（東京大学）オーストラリア学会代表理事

2003 年度オーストラリア学会全国研究大会
報告者および報告要旨

奥田敦子（奈良女子大学大学院人間文化研究科）

「多文化社会オーストラリアにおけるケア：緩和ケア・文化ケアを通して」

オーストラリアは多文化社会であることと、先進的な福祉国家であるというそれらの特徴は、現在深く交差し始めている。そこで本研究の目的は、ケアの中でも特に、先進性を示す「緩和ケア」と、異なる文化的背景をもつ高齢者へのケア（文化ケアと称する）を通してオーストラリア独自のケア精神を考察することである。オーストラリアの緩和ケアは独自性をもち、宗教に関わらず広い世界観を持った柔軟なものである。一方、異なる文化的背景をもつ高齢者へのケアは多文化主義政策により各文化を尊重したものが提供されている。

多田 稔（国際農林水産業研究センター）

「ミナミマグロ漁業におけるアウトサイダー漁獲の決定要因」

ミナミマグロはミナミマグロ保存委員会（CCSBT）に加盟する日豪NZによって漁獲割り当てに応じた漁獲がなされている。ところが、近年はCCSBT非加盟国による漁獲が増加し、ミナミマグロ資源の回復を遅らせている。非加盟国による漁獲量変動を分析した結果、日本市場の価格（ドル建て）、過去3-9年間の累積漁獲量、原油価格が有意な要因として抽出された。今後は為替レートの動向が主要因になるものと推測される。

岡本次郎（アジア経済研究所）

「オーストラリアの自由貿易協定（FTA）政策」

2000年代に入り、オーストラリア政府は積極的に2国間FTAを追究し始めた。すでにシンガポールとのFTAは調印され、タイとは交渉が始まり、米国との交渉は2003年3月に開始が予定されている。1990年代末頃までは多国間貿易自由化プロセスを最優先させていたオーストラリアが、「なぜ2国間FTAへ舵取りを行ったのか」、「オーストラリアは2国間FTAに何を求めているのか」について、80年代以降の貿

易政策、90年代半ばの政権交代、国際・地域環境の変化に焦点をあて、今後の展望を含めて報告を行いたい。

花井清人(成城大学)

「オーストラリア経済改革の政策ガバナンス」

1990年代に積極的に行われたオーストラリアの経済改革は、政府と市場との関係での規制緩和にとどまらず、公企業改革、行財政合理化などにもメスが入ることにより、改革の対象が政府構造のガバナンスのあり方にまでも広がることになった。この報告では、連邦・州地方政府の政府間関係の視点から、経済改革への州地方政府のコミットメントの問題を行財政面から検討し、そこでの残された課題を明らかにする。

岡崎一浩(愛知工業大学)

「オーストラリア会計基準の国際会計基準への収斂」

財務報告審議会(FRC, Financial Reporting Council)は、2002年7月3日に、オーストラリア会計は2005年から自国主義から決別し、国際会計基準を自国の会計基準に取り込むことと公表した。これに先立ち1997年3月、連邦財務省は、新会社法経済改革プログラム(CLEAP Corporate Law Economic Reform Program)の一環として会計改革も断行することとし、CLEAP第1次報告書を公表している。今回の発表は、精緻な会計基準を組み立てていたオーストラリアが自国主義を捨てた経緯を分析し、日本への応用を探る。

遠山嘉博(追手門学院大学)

「オーストラリアの対日工業製品輸出の進展と課題」

オーストラリアの製造業は、1980年代中以降の保護削減下に輸出志向性を高めている。一方、日豪貿易は、オーストラリアの農牧畜産品や鉱物等の対日輸出と、日本の工業製品の対豪輸出で成っていると一般に考えられている。しかし、その実態はこの考えに修正を迫るほど意外性に富んでいる。(1)オーストラリアの対日工業製品輸出の進展、(2)対世界輸出との比較によるその特徴の抽出、(3)問題点の私的と政策的提言、を中心に報告する。

大会・学会費納入について

全国研究大会参加の有無にかかわらず同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、5月25日までにご投函ください。

第二日目の昼食につきましては、当日ご案内いたします。懇親会費は7,000円です。

会費未納の方は、同封の振込用紙で納入されるか、大会当日会場受付でお支払いください。年会費は5,000円です。

会場は、禁煙、飲食禁止です。ご協力願います。

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学国際学部 福嶋輝彦研究室気付

オーストラリア学会事務局 : 042-797-9467 / FAX : 042-797-2743

Email: terryf@obirin.ac.jp 事務局住所が変わりましたので、ご注意ください

会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事(鈴木、HAF00025@nifty.ne.jp)までお送りください。

ミニ書評 デイクソン著(大角翠訳)(2001)『言語の興亡』岩波新書

「オーストラリアにはデイクソン(ラトロブ大学)とハリデー(シドニー大学)がいるから心配ない」と口にするオーストラリアの言語学者は多い。そのデイクソンが言語の発達における断続平衡説という仮説モデルを提示し、言語変化論に一石を投じた。これは言語変化が緩くて、しかも長い平衡期と、急速に収束や拡張、分裂する中断期とが繰り返されたとする説である。

私にとって最も興味深いことは、言語の平衡状態を中断させる非言語的要因として三つのタイプが指摘されている点である。それぞれ、自然的要因、物質的革新、侵略的勢力である。これらは従来の社会言語学の理論と照らし合わせてみても、特に新しい指摘がなされたということではないが、オーストラリアで長くフィールドワークを行ってきた学者の説得力ある指摘であるという点で重要だ。

私は接触言語の安定度の要因について研究しているが、大陸と島における接触言語の特徴に関する構成要素は異なると考えている。つまり、大陸では地理的な圧力が大きく、社会構造距離変数も大きい。したがって母語(接触言語)維持圧力は小さい。接触言語以外の共通コード体系が生まれやすいため、接触言語は拡散しやすい。一方、島では地理的な圧力が小さく、社会構造距離変数も小さい。したがって母語(接触言語)維持圧力は大きい。接触言語以外の共通コード体系が欠落しやすいため、接触言語は温存されやすい。さらに連続体の中間に位置する接触言語も存在すると考えている。言語類型論的にみるならば、オーストラリアのカナカ英語や中国ビジン大陸の、ノーフォーク語は島の、クリオル語は連続体の中間に位置付けられると考える。

デイクソンはニューギニアのウッドラーク島で話されているムコウ語を急激な言語変化を起こした例として取り上げているが、これは私が指摘した地理圧力だけではすべてを説明することはできず、社会構造距離変数を設けることが必要であることを示唆している。

岡村 徹 (帝塚山学院大学)

2. オーストラリア研究助成プログラム 2002/2003年度応募受付中

オーストラリア政府の文化機関である豪日交流基金が、オーストラリアに対する理解と知的ネットワークを強化するために設立した助成プログラムで、日本のオーストラリアいます。関連の研究者を対象として応募を受け付けています 詳細は:<http://www.ajf.australia.or.jp/sirneil/>

豪日交流基金本部事務局 電話:03-5232-4063

3. オーストラリア研究』第16号投稿募集

『オーストラリア研究』第16号(2004年1月発行予定)に掲載する論文を募集します。締め切りは2003年8月末日。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

オーストラリア研究編集委員会 投稿・連絡先 〒252-8510 藤沢市亀井野1866 日本大学生物資源科学部 小林 信一 :0466-84-3656 Fax: 0466-80-1178 E-mail: kobayashi@brs.nihon-u.ac.jp

4. 『オーストラリア研究』研究文献目録掲載のお知らせ

第12号以降会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。

編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだFD)をご利用ください。[記入例]は第15号(2003.3 予定)を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。締め切りは2003年10月30日(期日厳守) 連絡先は 編集委員会あて。なお、受信の確認メールが必ず返信されますので、ご注意ください。